

平成 21 年度 NBRP-情報-運営委員会 議事概要

開催日時：2009 年 12 月 21 日(月)14:30～16:30

開催場所：情報・システム研究機構 東京連絡所 会議室

参加委員：荒木委員、亀井委員、川口委員、小林委員、城石委員、菅原委員、鈴木委員、田畑委員長、

長村委員、成瀬委員、仁田坂委員、深海委員、増井委員、松沢委員(代理 落合 知美)、山崎委員

(オブザーバー)

成田恵理子 文部科学省 研究振興局ライフサイエンス課・生命科学研究係長

鈴木睦昭 国立遺伝学研究所知的財産室・室長

佐藤 清 NBRP 事務局・事務局長

●配布資料

資料1 NBRP「情報」運営委員会情報センターの活動報告と今後の計画

(補足資料1 NBRP データベース研究会プログラムおよびアンケート結果)

資料2 大型類人猿情報ネットワーク(GAIN)

資料3 NBRP-GBIF 課題(参考資料)

資料4 ナショナルバイオリソースプロジェクトにおけるデータベース整備および成果情報の公開に関する報告書(案)(補足資料1～7)

開会

開会に先立ち田畑委員長より挨拶があった。

成田生命科学研究係長より、事業仕分けおよび中間評価の取りまとめ実施について報告があった。

【議題】

報告事項

1. 2009 年度事業報告について

(1)情報センター

山崎委員より配布資料1に基づき、情報センターにおける役割の説明および 2009 年 1 月～11 月間の活動報告があった。

(2) 大型類人猿情報ネットワーク(GAIN)

落合委員代理より配付資料2に基づき、今年度の活動報告があった。

その他以下の質疑応答があった。

・水族館と GAIN とのつながりはあるのか。(亀井委員)

→動物園や水族館などの施設は、研究や研究者の受け入れ体勢が不十分なため、京都大学連携事業の一環として支援を行っている。(落合委員代理)

・チンパンジーとオラウータンの個体数はどのくらいか。減少傾向にある理由とは。また、実験施設として繁殖を行ってはどうか。(増井委員)

→国内でチンパンジー350 個体、オラウータン 49 個体ある。減少傾向の一番の原因は繁殖が難しいとされる中、1980 年ワシントン条約が結ばれ野生からの輸入が禁止となったため。以前は三和科学チンパンジー・サンクチュアリ・宇士 CSU において実験の他、チンパンジーの繁殖も行っていたが、国内の動物実験に対する問題等があり、現在繁殖は行っていない。また、残った個体は動物園へ移動している。(落合委員代理)

(3) 地球規模生物多様性情報機構(GBIF)

菅原委員より配付資料3に基づき、今年度の活動報告があった。

その他以下の質疑応答があった。

・分類学人材データベースというのは、どのような分野の登録者がいるのか。(増井委員)

→これは、科博の活動になるため、科博にいる方の分類学、あるいはそれに密接な関係のある分類学専門者のデータベースとなる。現在 600 人名登録者がいる。(菅原委員)

・(独)水産総合研究センターでは、標本の位置情報や貸出し情報など現在整備中でバーコードライフや GBIF と連携を行っていきたいと考えているが、バーコードライフと GBIF の違いが明白でないため、紹介資料等があれば他の法人など連携しやすくなるのでは。(小林委員)

→ぜひ連携を行いたい。GBIF 紹介の資料はあるが内容が専門的である。12/2GBIF 日本ノード運営委員会に於いても承認をされ、新たにわかりやすい資料を作成することになったので、出来上がり次第、紹介を行いたい。(菅原委員)

2. ナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) 情報ワーキンググループ議論結果について

城石委員より配付資料4に基づき、記載内容等についての説明があった。
本報告書の見解は、あくまでも現在の状況を前提として示されたものであり、今後の情報の取り扱いの全てを決めたものではなく、今後とも不断の検討を進め、更に発展されることが期待されており、必要に応じて改訂が加えられるものとし、次年度開催のNBRP推進委員会にて承認を得る予定と報告があった。

その他以下の質疑応答があった。

- ・意識調査のアンケート対象者は。(増井委員)
→代表機関の担当者と運営委員会委員長宛へ行った。(城石委員)
- ・利用の形態を考えたということが非常に重要であって、日本でこのような報告書が出ることは前例がないこともあり、とても有効である。(増井委員)
- ・データベース上の情報に関する著作権の問題は、法的にもかなり難しいが何らかの形の指針は必要と考える。(城石委員)
- ・企業と大学のスタンスが相違しているため、報告書が出来上がればそれぞれ意見が伺える。(増井委員)
- ・GBIF ポータルサイトではクリエイティブ・コモンズを使用している。記載されたマークで主張したい権利が文章を読まなくても一目瞭然でわかる。(資料3、参考資料)(菅原委員)

3. その他報告事項

特になし。

審議事項

4. 2010 年度事業計画について

(1) 情報センター

山崎委員より配布資料1に基づき、今後の計画について以下の説明があった。

- 2-1・セキュリティ対策の強化と安定運用を継続。
- 2-2・課金システムの開発および実装。(各生物種)
- 2-3・利用規約の整備。(WGの報告書に基づいて)
- 2-4・成果論文とリソースDBとの連携強化。
- 2-5・利用者のニーズに対応した公開方法の改良・改善の継続。
- 2-6・リソース管理システムの構築支援を継続。
- 2-7・総合検索サイトの機能強化。

2-8・チュートリアル、マニュアルなどの整備。

2-9・Plant and Animal Genome Meeting (2010/1/9-13) San Diegoにて
海外植物ゲノムを中心としたデータベースと共同で展示ブースをレンタルし、データベースの広報活動を行う予定。

2-10・NBRP データベース研究会 2010年3月に開催予定。

その他以下の質疑応答があった。

・2-2 課金システムとは生物に対して行うのか。(長村委員)

→情報センターではなく生物に対して行う。(山崎委員)

・課金システムについて、ある程度の価格が決定すれば情報センターでひな形など作成していただけるのか。(成瀬委員)

→課金システムを導入するだけなら難しくはないが、内部管理システムとの連携が必要になることを考えると、完成まではある程度時間がかかると思う。(山崎委員)

→メダカは自立的に行っていきたいので、今後も情報センターと協力して進めて行きたい。(成瀬委員)

・2010年度事業計画については、特に意見等はなく承認された。

(2)大型類人猿情報ネットワーク(GAIN)

落合委員代理より配布資料2に基づき、来年度2010年度の活動計画(予定)について以下のとおり説明があった。

①HPでの情報公開継続

②ゲノム情報の収集

③サンプル配布事業

来年、京都大学霊長類研究所と野生動物研究センターに生物資源バンクの設立を予定しており、協力を行っていききたい。

④動物園・水族館との連携推進

⑤三和化学チンパンジー・サンクチュアリ・宇土CSUとの連携

⑥SAGA等を通じたユーザおよび研究協力者との連携

⑦大型類人猿以外の稀少霊長類の国内情報を整備

の3点については、引き続き活動を行っていく。

・2010年度事業計画については、特に意見等はなく承認された。

(3)地球規模生物多様性情報機構(GBIF)

菅原委員より配布資料3に基づき、2009年度実施内容と同様に2010年度も引き続き活動を行って行く説明があった。

また、新しい試みとして12/2に開催をしたGBIF日本ノード運営委員より一般市民から写真による生物分布情報の収集を行うとの提案があった。実際に魚類ではダイバ

一から情報収集を行った成功例もあるため、今後検討を行っていくとの報告があった。

・2010年度事業計画については、特に意見等はなく承認された。

5. その他

課金システムについて以下の意見交換が行われた。

・同様のリソース内で料金の統一化は行うのか。(荒木委員)

→料金は統一できないが、課金の形態などはある程度統一できるとよい。(山崎委員)

→平成22年度の本実施に向け、NBRP全体のシステムについて統一できるよう早急に進めていきたい。(佐藤事務局長)

・課金の考え方は。(増井委員)

→NBRPでは提供にあたる部分を実費徴収するとう考え方。(鈴木委員)

・農水の系統と考え方が少し違う気がする。(増井委員)

→農水では、本来の遺伝資源とゲノムリソースとの価格が若干違う。(長村委員)

・農水には沢山品目があるが、一つのシステムなのか。(山崎委員)

→組織ごとによって違う。Webサイトから申し込みが出来るようになっている。実費の徴収については事務サイドで行っているが、実際決済時には様々な問題が発生している。(長村委員)

・クレジットカード決済はポピュラーなのか。(鈴木委員)

→あまりポピュラーではない、カードと銀行振り込みと両方使用する場合がある。(山崎委員)

→到着後の決済を希望している場合、クレジットカードは有効なため、国内でカード決済を行っている例は沢山ある。また、大学では立て替え払いでクレジットカードを使用している例があるので、うまく活用するとよいのでは。(鈴木委員)

閉会

田畑委員長より、謝辞が述べられ閉会した。